

会員限定セミナー

支援者はどうして母乳に“こだわる”必要があるのか：母乳育児とその支援が大切な理由
Why should we support breastfeeding?: Significance of breastfeeding and breastfeeding support.

丸山憲一（小児科医・医学博士・IBCLC）
Kenichi Maruyama, MD, PhD, IBCLC

【学習目標】

母乳育児支援を行うにあたって支援者として知っておくと役立つ以下の知識を習得する。

1. 母乳育児の利点
2. 母乳育児支援の重要性

【抄録】

昨今、「母乳育児」が母親に過度の負担を強いている、母親の育児不安を煽っているとして、「母乳育児にこだわる必要はない」といった論調が目立つようになってきている。しかしながら、母乳には多くの利点がある。妊娠中の母親の多くは子どもに母乳を与えることを希望している。また、母乳育児を行うにあたっては適切な支援が重要な役割を果たしている。

母乳は子どもにとっては感染症、肥満、乳児突然死症候群、壊死性腸炎などを予防する、腸内細菌叢を適切に保つ、知的発達を促進するといった効果がある。母親にとっては産後の体重減少や乳癌、卵巣癌、心血管系疾患、2 型糖尿病などの予防に効果がある。社会経済学的にも利点があることや、災害時の乳児の栄養としての重要性も明らかになっている。

母乳育児を行う上で適切な支援の有効性については、多くのエビデンスがある。WHO/UNICEF の「母乳育児がうまくいくための 10 のステップ」(母乳育児成功のための 10 カ条 2018 改訂版)は、それらのエビデンスに基づいて作成されている。母乳育児支援体制の整った環境は母乳育児を促進する。しかし、その一方で、乳業メーカーなどの不適切なマーケティングにより、母乳育児は容易に阻害されやすいことも認識しておく必要がある。

以上のような母乳の利点や母乳育児支援の重要性を考えると、支援者は母親のおかれた状況や意思に十分配慮しながら、母乳に“こだわって”みてもよいのではないだろうか。

【文献】

- ・ NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会 (2015). 母乳育児支援スタンダード第 2 版. 医学書院
- ・ 日本母乳の会 (2019). 赤ちゃんにやさしい病院運動実践ガイドおよびガイドライン 周産期医療施設における母乳育児の保護、促進、そして支援; 実践ガイド 2018 ガイドライン 2017. 日本母乳の会
- ・ Victora CG, Bahl R, Barros AJ, França GV, Horton S, Krasevec J, Murch S, Sankar MJ, Walker N, Rollins NC; Lancet Breastfeeding Series Group (2016). Breastfeeding in the 21st century: epidemiology, mechanisms, and lifelong effect. Lancet. 2016 Jan 30;387(10017):475-90

- Rollins NC, Bhandari N, Hajeerhoy N, Horton S, Lutter CK, Martines JC, Piwoz EG, Richter LM, Victora CG; Lancet Breastfeeding Series Group. (2016). Why invest, and what it will take to improve breastfeeding practices? Lancet. 2016 Jan 30;387(10017):491-504
- CDC(2019). CDC's WORK TO SUPPORT & PROMOTE Breastfeeding in Hospitals, Worksites, & Communities.
<https://www.cdc.gov/breastfeeding/pdf/breastfeeding-cdcs-work-508.pdf>
(2021.6.28 確認)
- WHO/UNICEF(2018)/日本ラクテーション・コンサルタント協会(訳)(2018). 母乳育児がうまくいくための 10 ステップ(「母乳育児成功のための 10 カ条」2018 年改訂版).
https://jalco-net.jp/dl/10steps_2018_1989.pdf (2021.8.5 確認)
- IBFAN(2019)/母乳育児支援ネットワーク(訳)(2021). 乳児の健康を守るために:保健医療従事者のための「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」ガイド 12 版. 母乳育児支援ネットワーク

母乳に“こだわる”産科施設での出産後早期の母乳育児支援

Early postpartum management in maternity facilities, specifically to support breastfeeding

牛尾江実子(産婦人科医・IBCLC)
Emiko Ushio, MD, IBCLC

【学習目標】

参加者は以下ができるようになる。

1. 帝王切開や無痛分娩など分娩時の医療介入の現状について知る
2. 医療介入を行う分娩と母乳育児の関係について理解する
3. 分娩時に医療介入を行った母親に対する適切な母乳育児支援を行うことができる

【抄録】

分娩により母乳育児の実践が始まる。母乳育児の確立のために、出産後早期の適切な支援は非常に重要である。

近年、妊婦の高年齢化に伴い、医療介入が必要な分娩が増えている。帝王切開率は 20% を越え、母子の安全のために陣痛促進剤の使用・会陰切開・器械分娩などの医療行為を行うことも多い。また、無痛分娩の需要も高まっている。

陣痛促進剤の使用や帝王切開は、生理学的に母乳分泌の確立に時間を要すると言われている。実際には、母乳育児の確立には様々な要因が関与するため、医療介入が母乳育児の確立に影響するかどうか結論は出ていない。しかし、医療介入が必要な状況で出産した母親は、予定とは異なる分娩方法や早期接触の未実施、母子分離など、母乳育児をスムーズに開始出来ない状況にあることも多く、出産後早期より細やかな支援が必要とされる。

また、医療介入により母親が主体的に分娩に向き合えなかった場合、ネガティブな経験とし

て捉えられることがある。そのような母親にとって、主体的に母乳育児を行うことが母親としての自信を持つきっかけになるのではないだろうか。そのため、医療介入が必要だった母親こそ、母乳育児を通して自己を肯定し自信を持つ機会となるように、出産後早期より適切な支援を受けられることが望まれる。

【文献】

- ・ UNICEF/WHO: 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシックコース「母乳育児成功のための10か条」の実践、医学書院、2009
- ・ NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会: 母乳育児支援スタンダード 第2版、医学書院、2015
- ・ 水野克己: 母乳育児支援講座 改訂第2版、南山堂、2017
- ・ 天野完: 産科医のための無痛分娩講座、克誠堂出版、2018
- ・ Prior E, Santhakumaran S, Gale C, Philipps LH, Modi N, Hyde MJ. Breastfeeding after cesarean delivery: a systematic review and meta-analysis of world literature. *Am J Clin Nutr.* 2012;95(5):1113-1135.
- ・ Nam JY, Choi Y, Kim J, Cho KH, Park EC. The synergistic effect of breastfeeding discontinuation and cesarean section delivery on postpartum depression: A nationwide population-based cohort study in Korea. *J Affect Disord.* 2017;218:53-58.
- ・ Yokoyama M, Tanaka K, Sugiyama T, Arakawa M, Miyake Y. Cesarean section is associated with increased risk of postpartum depressive symptoms in Japan: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. *J Affect Disord.* 2021;278:497-501.

NICUでの母乳育児支援～早産児の栄養 up to date

Breastfeeding support in Neonatal intensive care unit~ Up-to-date nutrition for preterm infants~

齋藤朋子(新生児科医, 医学博士, IBCLC)
Tomoko Saito, MD, PhD, IBCLC

【学習目標】

参加者は以下ができるようになる。

1. 早産児の栄養管理について最新の情報を知る
2. NICUにおける母乳育児支援の考え方を Neo-BFHI をベースに理解する
3. NICUでの母乳分泌維持の工夫を知る

【抄録】

早産児の栄養管理の目標は、予後に影響する合併症である壊死性腸炎や敗血症などを防ぐこと、そして子宮外でも胎児に近い発育を目指すことである。

早産児の壊死性腸炎は在胎週数が早いほど発症頻度が上がることはわかっているが、発症要因は特定できていない。その要因の一つとして、腸内細菌叢の異常が指摘されている。グラム陰性桿菌由来のリポ多糖(LPS)が未熟腸管での過剰な免疫応答を引き起こし、腸管粘膜が損傷を受けることが原因の一つと考えられている。母子分離、高い帝王切開率、抗菌薬投与など腸内環境が悪化するリスクの高い NICU 入院児に対し、壊死性腸炎を予防するための複数種のプロバイオティクスの効果、それらの増殖を促すヒトミルクオリゴ糖(HMO)を含む母乳栄養の有用性などが様々な研究で示されている。また、超早期授乳の重要性も示されているが、母親自身の母乳を 24 時間以内から十分に得られない場合もある。人工乳の消化管への負荷やもらい母乳の感染リスクを考慮すると、ドナーミルクが次の選択肢として推奨されている¹⁾。

次に、早産児の適切な発育に必要な蛋白や電解質を補充するために、母乳強化栄養が広く行われている。日本で一般的に使用されているウシ由来の母乳強化物質により、feeding tolerance やミルクアレルギー、milk curd syndrome など腸管合併症を時々経験する。近年、母乳と人乳由来の母乳強化物質を用いた exclusive human milk-based diet は壊死性腸炎の頻度を低下させるとの報告があり、日本でも注目されている¹⁾。母乳強化製剤の影響と考えられる feeding tolerance の自験例を含め、早産児、特に極低出生体重児の栄養管理の最近の研究データをお示しする。

NICU 入院中でも母乳育児を支援するための指針として、「Neo-BFHI」が 2015 年にリリースされた²⁾。Neo-BFHI は BFHI の NICU 拡大版で、たとえ NICU だとしても、「いつでも児と家族と一緒にいられる環境を整えること」が母乳育児支援には大切であると明記されている。さらに、妊娠中から退院後まで継続した、個々の家族の状況に合わせたサポートが勧められている。当院では出生前から、児の予測される病状だけでなく NICU での過ごし方や家族のできることを産科医師と一緒に家族にお話ししている。また希望者には NICU に入院予定の児の家族への出産前教室「ファミリークラススペシャル」で母乳の重要性や母乳分泌維持の具体的な方法について産前からお伝えする機会を設けている。入院後は家族の居心地の良さを大切にした NICU 環境を目指しつつ、直接授乳支援や、入院中から退院後まで継続した「育児支援外来」などで継続したサポートを行っている。その取り組みについてご紹介する。

【文献】

- 1)水野克己,他. 早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言. 日本小児科学会雑誌 2019;123:7:1108-1111
- 2) The Neo-BFHI package, 2015 ed. Prepared by the Nordic and Quebec Working
Neo-BFHI 2015 日本語訳 https://jalc-net.jp/dl/Neo_BFHI_J.pdf

母乳と薬(とくに精神・神経疾患の薬)について押さえておきたい知識

Medication and Mothers' Milk - Medications specifically for Psychoneurotic Disorder-

和田 友香(新生児科医・医学博士・IBCLC)
Yuka Wada, MD, PhD, IBCLC

【学習目標】

薬を使用している母親への母乳育児支援を円滑に行えるようになるために、以下の知識を習得する

1. 薬が母乳へ移行する機序
2. 母親によく処方される薬と母乳
3. 精神・神経疾患の薬を使用している母親への母乳育児支援
4. 母乳と薬に関する情報収集方法

【講義概要】

授乳を中断しなければならない薬はほとんどない。添付文書には「治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。」と記載されるようになったが、実際には「やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。」と記載されていることが多い。根拠となっているデータが動物実験であったり、乳汁中にごく微量に薬が検出されたりすることだけを理由にしていることも多く、そのまま臨床に使用できないデータが多い。また、授乳が可能であるとされている薬の中にも精神・神経系のものなどで配慮が必要なものもある。

本講演では、どのような薬で注意を要するのか、説明のポイントや継続支援体制などを含めて解説する。

【参考文献】

- ・ 伊藤真也, 村島温子: 薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳, 第3版, 南山堂, 2020
- ・ Thomas W. Hale. Hale's Medications & Mothers' Milk 2021: A Manual of Lactational Pharmacology. 19th ed. Springer Publishing Company, 2020
- ・ Drugs and Lactation Database (LactMed)
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK501922/>